



見方を変えて 味方に変える

山形県中学校長会

副会長 今崎 浩規 (米沢市立第一中学校)

『考え（捉え）方次第で未来は変わる
～変えられるものを変える～』

年度初めに全職員で確認したことです。毎年確認しています。人（組織）は何かの対応をするとき、これまでの経験や発想をもとにその方法を考えます。しかし、変化の大きい世の中になり、コロナの状況の中で、これまでの経験や発想ではうまくいかないことが多くなりました。まさに今、必要なことであると思っているからです。

このようなことをいつから思い始めたかと自分に問いかけてみました。しかし、明確にはわかりませんでした。これまでの様々な経験の中で、自分自身が壊れないように、自分を守るために知らず知らずのうちに、いつの間にか身につけてしまったことだと思います。しかし、そのおかげで、困難にぶつかったとき、自分を追い詰めることなく、落ち込むことなく対応できたと感じています。

続いて、「逆風が吹いたらどうしますか？」と職員に尋ねます。誰もが経験したことがある、自分にとっての逆風。この対処方法をどう考えるかが鍵であると考えているからです。その方法は様々あると思います。例えば、「その場から立ち去る」という方法もあるでしょう。これが自分を守る一番の方法かもしれません。しかし、そうできないことやそれでは解決しないことがたくさんあります。また、「逆風に立ち向かい続ける」という方法もあるでしょう。振り返ってみれば、昔の私はこれだったと思います。若さに任せて反発し、ぶつかり続けていたように思います。しかし、この方法では、解決はおろか状況を悪化させてしまうことが多いと、今になって気付きます。この問いに対する私の今の答えは、「自分が向きを変える」です。「自分が向きを変える」ことで、風が当たる方向を変えようとするものです。

このことは、決して立ち向かわない、チャレンジしないということではありません。「変えられない事柄（事実）を変えよう」と『もがく』ことで、身も心も疲弊してしまうことを避けたいとの思いです。そして、「変えられるもの」を「変えていく」ことで、マイナスをプラスに変えることができると考えています。別の言い方をすれば、事実を受け入れ、その中で出来ることを探すという、「ポジティブシンキング」ということだと思えます。そして、意外にも、向きを変えることによって、今まで気づかなかったことに気付くことができたり、新しい視点が生まれたりすることも多いと感じています。

私たちがこれからの時代を生きていく上で、この対応方法と感覚を備えることが必要であると感じていますし、これからの予測不能な時代、これまでの常識が通用しない時代を生き抜かなければならない子供たちにとっても必要不可欠な力であると考えます。子供たちと関わる私たちが、この対応方法と感覚をいち早く身につけ、子供たちにも身につけさせていきたいと思っています。

誰かのせいにしても、何かのせいにしても、現状は好転しません。それどころか、前向きな心を失っていただけです。それよりも、見方を変え、発想を変えることで、味方になってくれる「ひと」「もの」「こと」を増やしていくことが大切であり、課題解決への近道になると考えます。

コロナの影響は長く続き、「コロナのせいで」ということが多くあります。しかし、発想を変えれば、「コロナのおかげで」と言えることもいろいろあったと感じています。「コロナのせいで」と不平を言っても何も変わりません。それよりも「コロナのおかげで」得られたことを次のステップに活かしていきたいと日々考えています。

令和5年度 第77回山形県中学校長会研究協議会

【ハイブリッド大会】

第77回山形県中学校長会研究協議会が6月9日(金)、研究主題「新たな時代を切り拓き、よりよい社会を形成していく日本人を育てる中学校教育」のもと開催された。今年度も発表者等一部の会員のみが参集し、記念講演を含めてオンラインで配信する「ハイブリッド形式」での開催となった。

研究発表

【学校経営】

研究主題 教師を育てる学校経営手法の研究

(1年次)

発表者 最上地区中学校長会

高橋 晋也(最上町立最上中学校)

実践の概要

- (1) 教諭・常勤講師へのアンケートの実施と結果の分析
- (2) 各グループの研究テーマの決定と研究、実践
- (3) 主な実践の取組と中間評価



【生徒指導】

研究主題 社会の変化に対応する生徒指導の推進と

校長としての関わり

～これからの生徒指導を推進する

事例の共有と協議を通して～(3年次)

発表者 山形地区中学校長会

齋藤 真一(山形市立第五中学校)

実践の概要

- (1) 定例校長会での生徒指導の情報共有と協議
- (2) ミドルリーダー育成のための生徒指導主事等研修会
- (3) 山形市生徒指導四者連絡協議会の実施



【学習指導】

研究主題 確かな学力の育成を図る学校経営のあり方

～今日的課題の解決に向けた共通実践を通して～(2年次)

発表者 西置賜地区中学校長会

金田 孝善(飯豊町立飯豊中学校)

実践の概要

- (1) アンケートの実施と研修
- (2) 授業力向上を目指した「評価の3観点」による確かな見取りと学習評価の工夫
- (3) 「主体的・対話的で深い学び」の実現のためのICT活用と振り返りの場面設定



グループ協議・情報交換会

- ・ブレイクアウトルームにて、研究発表や喫緊の課題についての協議等

第2回理事会議報告

今年度の第2回理事会が、去る11月17日(金)大手門パルズにおいて開催され、これまでの活動等の報告や今後に向けての話し合いが行われた。情報交換では、「県公立高等学校入学者選抜方法改善検討委員会」からの報告や喫緊の課題等について話し合われた。

I 令和6年度の研究担当地区の確認

研究要項会誌掲載年度	研究担当地区	研究発表年度
令和4年～令和5年	学校経営Aブロック(最上地区担当) 生徒指導Bブロック(山形・上山地区担当) 学習指導Cブロック(西置賜地区担当)	令和5年～令和6年

II 第78回山形県中学校長会研究協議会(案)

1 期日 令和6年6月21日(金)

2 会場 ヒルズサンピア山形

3 開催の基本方針

- (1) 一日開催の参集型で行う。
- (2) 講演会は、5年に一度行う。
- (3) 全体会の後、3つの分科会においてグループ協議や情報交換の場を設ける。

4 内容(予定)

10:50 全体会 I

11:30 令和7年度第75回東北地区中学校長会研究協議会 山形大会について

13:00 分科会・情報交換会

15:20 東北地区中学校長会研究協議会 第1回大会運営委員会 顔合わせ

III 令和5年度 教育課程編成・実施に関する調査結果

研究推進委員会では、今年度も教育課程編成・実施に関する調査を実施し、その結果を第2回理事会で報告した。今年度の調査を行うにあたっては、働き方改革や感染症等への対応を踏まえた項目を設定し、各校での特色ある教育課程を編成する際の参考となるように配慮した。

なお、この調査の結果は、年度末発行の「会誌」に掲載する予定である。

令和5年度 全日中第2回理事会・研究協議会報告(10月25日)**1 会長挨拶**

※令和5年度前期の活動については、会報第77号を参照

2 報告事項

- (1) 常任理事会の報告
- (2) 各部・各委員会より報告
- (3) 各地区中学校長会活動状況報告
- (4) 令和5年度「文教関係立法・予算措置等要望」及び陳情活動
- (5) 令和5年度「中学校教育に関する調査」まとめ等

3 協議事項

- (1) 第74回全日本中学校長会研究協議会大分大会「宣言・決議(案)」
- (2) 第75回全日本中学校長会研究協議会岩手大会……参集型で実施
 - ・期日：令和6年10月16～18日、会場：トーサイクラシックホール岩手 等
 - ・山形県は94名全員参加
 - ・東北地区は第3分科会担当(福島・宮城)、参加費7千円
- (3) 第76回全日本中学校長会研究協議会香川大会
 - ・期日：令和7年10月22～24日、会場：レグザムホール 等
 - ・山形県は11名参加の割当、東北地区は第2分科会担当(山形：西村山地区・岩手)

4 連絡事項

- (1) 令和6年度機関誌「中学校」執筆依頼予定
 - ・山形県：4月「校長会だより」(編集担当幹事)、12月「特集学校経営」(東村山)
 - ・2月「グラビア」(編集担当幹事)
- (2) 全日本中学校長会「週案」

**5 情報交換「運動部活動・文化部活動の地域移行に関する進捗状況並びに実現に向けた今後の課題等について」
(北海道・東北ブロック)**

- (1) 山形県の進捗状況
 - ① 「山形県における部活動改革のガイドライン」(令和5年4月)
 - ② 実践研究校の取組(山形市、鮭川村、天童市)
 - ③ 先進的に部活動の地域移行に取り組んできた市の取組(鶴岡市)
 - ④ スポーツ少年団との連携、移行(白鷹町)
- (2) 課題 財政面、指導者の確保、学校間・地域間格差、教職員・生徒の過重負担

【各県の情報から】

- ・令和7年度末までに「半分以上移行できる」とした学校は2割弱である。
 - ・地域クラブに参加していた生徒が、学校の部活動に戻ってきている現状がある。
 - ・各市町村の予算計上を進める必要がある。
 - ・市町村教育員会の生涯学習課に「地域移行コーディネーター」を置いた。
 - ・「部活動は勤務時間内に終了」や「学校主体の部活動は廃止」と宣言している学校もある。
- やれるところから進めていく。
- 全国中学校体育大会は今後も継続するが、種目の精査が課題。